

流域における連携・協働の可能性について

平成30年8月1日

遠賀川河川事務所

1. 生態系ネットワーク形成により期待される効果【概要】

○生態系ネットワーク形成の取組を実施すると以下のような効果が期待される。



1. 生態系ネットワーク形成により期待される効果【概要】

○ 生物多様性向上、経済活性化、地域振興について以下のような効果・メリットが期待される。

大項目	小項目	効果・メリット
生物多様性向上 (さまざまな生物が生息・生育できる場所が増える)	森林・里山の再生	土砂災害リスクの低減 森林・里山の動植物の生息・生育環境改善 バードウォッチ、昆虫採取等の来訪者増加
	河川・湿地等の水辺の再生	水害リスクの低減 水辺の動植物、大型鳥類等の生息・生育環境改善 釣り人、レジャー等水辺利用者の来訪者増加
	海岸の再生	防風林等の整備による風水害リスクの低減 海洋生物の増加 海水浴客等の利用者増加
経済活性化	いきものブランド化	減農薬、無農薬、農地・漁場改善による生息環境の向上 農産物・水産物ブランド化による農家の所得増
	自然に触れ合える機会増加	花見・紅葉観光客の増加、自然体験ガイド等の新たな雇用創出
	エコツアー	自然環境・歴史・文化施設を巡るエコツアー等による観光客増加、観光業活性化
地域振興	休耕田、放棄地の活用、不法投棄、ゴミ減少	動植物の生息環境の向上 ゴミ、不法投棄減少による犯罪の減少
	自然への愛着醸成	自然体験、環境学習を通じて学校や企業などの水辺利用が活発化 自然への愛着醸成、豊かな人格形成
	企業CSR活動	企業CSR活動によるイメージアップ、収益増に寄与

1. 生態系ネットワーク形成により期待される効果

○ 生物多様性向上について、森林・里山・河川・湿地・海岸の再生により、災害リスクの低減、動植物の生息・生育環境改善、バードウォッチ、昆虫採集、釣り人、レジャー等の来訪者増加が期待される。



植樹



コウノトリの飛来



芦屋海岸(芦屋町HP)



湿地再生



わくわくごとくりバー遠足(小竹小学校)



海水浴(芦屋町観光協会HP)

1. 生態系ネットワーク形成により期待される効果

○ 経済活性化について、いきものブランド化のために減農薬、無農薬、農地・漁場改善等により農産物・水産物ブランド化、農家の所得増が期待される。



ふくおかエコ農産物認証制度



赤しそドリンク
遠賀特産の赤しそを使った飲料



夢れんげ
れんげを肥料として活用し、さらに福岡県の基準から5割以上化学肥料や農薬を節減した、手間暇かけて栽培された安心・安全なお米



コウノトリにあやかった関連商品も続々登場
写真：豊岡市



「コウノトリ育むお米」は、コウノトリのように世界へ羽ばたこうとしている
写真：豊岡市 沖縄サンエー



「コウノトリ育むお米」の売上高の推移
放鳥開始から 10 年間で、2,200 万円から 3 億 5,000 万円に増加

円山川コウノトリブランドと売上高推移

1. 生態系ネットワーク形成により期待される効果

- 自然に触れ合える機会の増加により、花見・紅葉観光客の増加、自然体験ガイド等の新たな雇用創出が期待される。
- 自然環境・歴史・文化施設を巡るエコツアー等による観光客増加、観光業活性化が期待される。



JRウォーキング(遠賀川水源地ポンプ室)

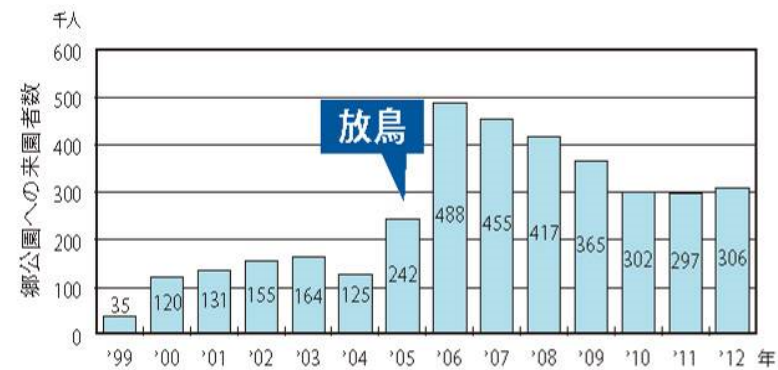


図 「コウノトリの郷公園(豊岡市)」来園者数の推移



自然観察(中島)



図 「順天(スンチョン)自然生態公園(韓国)」来園者数の推移

1. 生態系ネットワーク形成により期待される効果

○ 休耕田、放棄地の活用、不法投棄、ゴミ減少により、動植物の生息環境の向上、犯罪の減少が期待される。



地域による放棄水田における湿地再生
(豊岡市 田結地区)



遠賀川河口堰のゴミ (H29)



春の遠賀川一斉清掃 (H29)

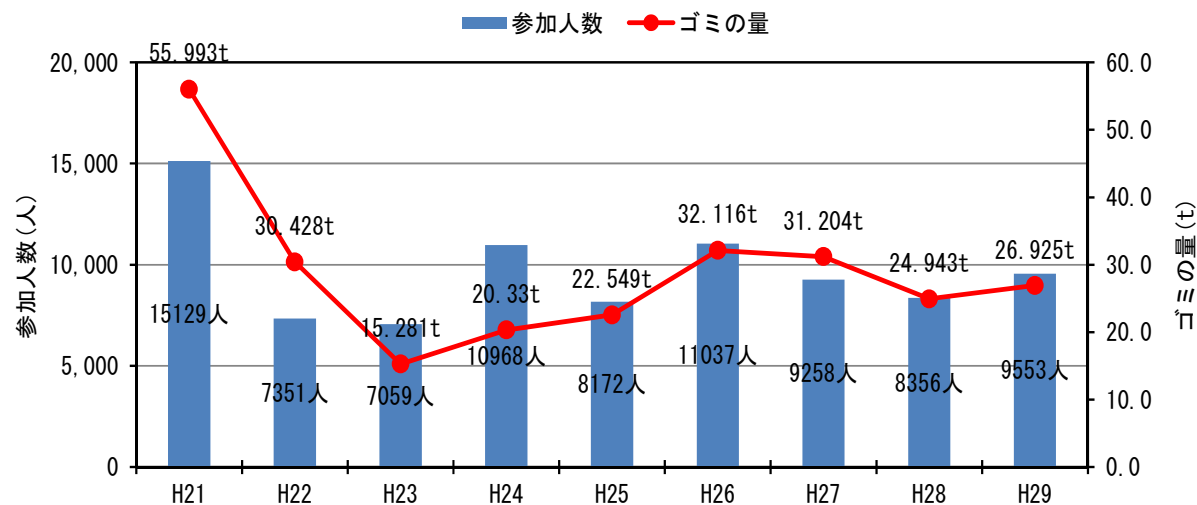


図 春の遠賀川一斉清掃の参加者、回収したゴミの量

1. 生態系ネットワーク形成により期待される効果

○ 自然体験、環境学習を通じて学校や企業などの水辺利用が活発化、自然への愛着醸成、自立心、社会貢献、郷土愛、豊かな人格形成が期待される。



ホタルの保全



環境学習

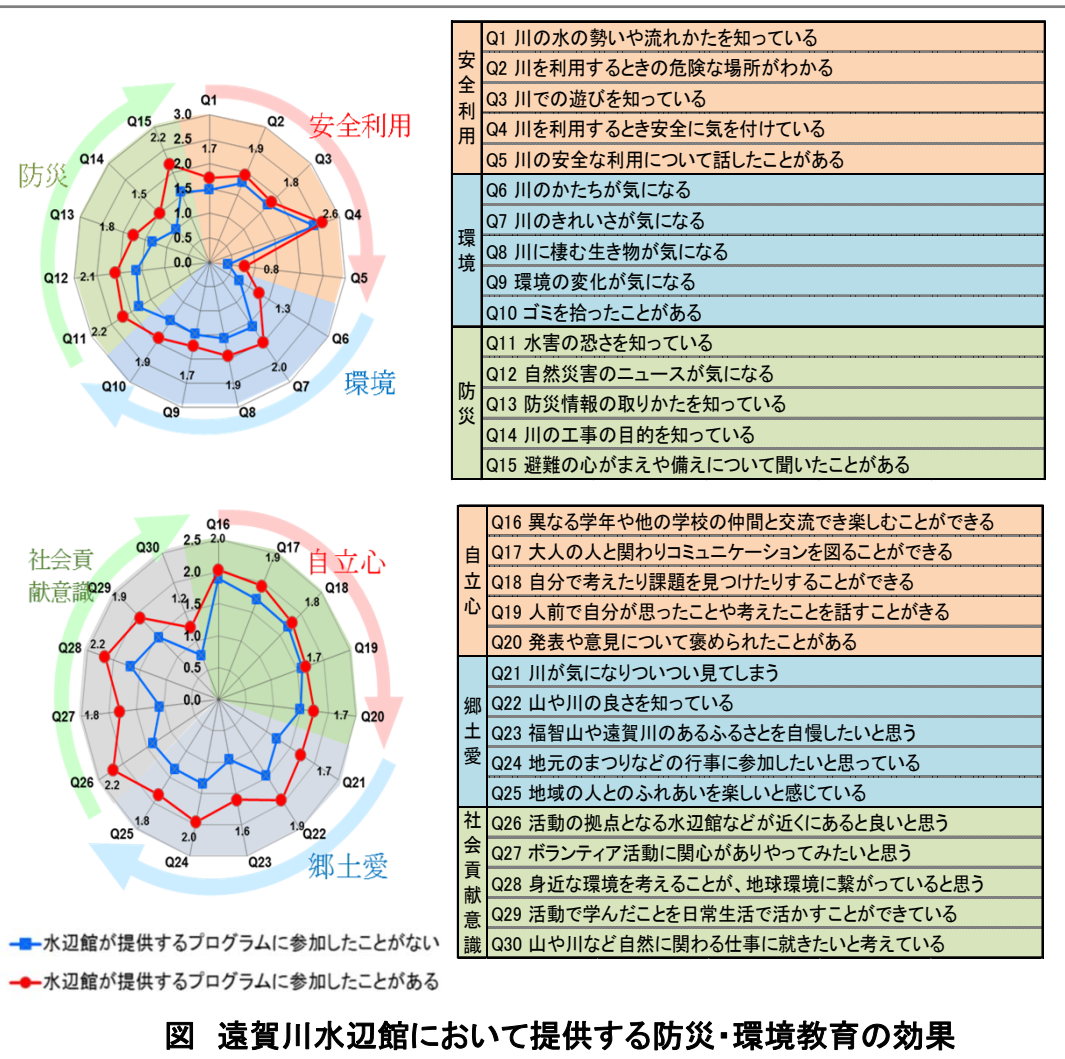


図 遠賀川水辺館において提供する防災・環境教育の効果

1. 生態系ネットワーク形成により期待される効果

○ 企業CSR活動による地域貢献、イメージアップ、収益増が期待される。



TOYOTA主催のゴミ拾い(福岡県室見川)



熊本地震復興支援活動

サントリーグループでは、2016年4月の熊本地震発生直後に「サントリー天然水」約21万本を、5月には義捐金1億円を拠出。10月には3億円の追加支出を決定し、復興支援活動「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」を開始しました。写真は復旧を支援した田んぼでの田植えイベントの様子。

サントリーによる田植えイベント



図 新規企業の誘致

豊岡市では、豊岡市の取り組みに共感したとして、太陽電池製造を手掛ける「カネカソーラーテック株式会社」の本社・工場が市内に設立された(H11)。

同社は、再生可能エネルギー固定買取制度を活用した発電施設「豊岡エコバレー・山宮地場ソーラー」のパネル製造・維持管理を受託しており、この売電収入から運営経費を差し引いた利益は、豊岡市の環境施策の財源に充てられ、経済効果が環境保全へと繋がっている。

2. 【参考】流域における連携・協働の可能性

準備会では、各機関の取組み事例について意見交換を行った。
その中の取組は、大きくは以下の4つに分類された。

- ホームページや広報誌による情報発信、環境学習による啓蒙啓発活動
- 清掃活動、希少生物(サケ、ホタル、シジミの放流)の保護、外来生物(ホテイアオイ、ザリガニ)の駆除による自然保護活動
- 環境配慮の多自然かわづくり、土地改良事業、水辺公園等のハード整備
- 減農薬、日本酒ブランド化といった地域づくり

上記内容を踏まえ、今後、流域一体となって連携・協働できる可能性を検討していきたい。